

レボルソン
バラータ

南リオグランデは飽くまでも初志貫徹

ワ氏の妥協策も不成功

自州の長官を知り得ぬ
サンパウロ州民

次期州統領は果して誰？

新聞時間 午後（三時）より六時までは
ドクトル
高岡 專太郎
ル・フアгентスハ
電話 七四六八三八

休暇願を提出した
アルバロ氏留任

エピタシオ氏歸途に就く

「自己の政治的立場に窮し辭職を決意して州議會に對し休職を提出（前號辭職とあるは誤り）」し其承認を受けたバライー州長アルヴァロ氏は翌十一日巴里の州長老エピタシオ・ベソア氏宛其歸來を報じたとこのエピタシオ氏より直ちにバライー州の爲まへ輕舉して重して現職に留まり輕舉して敵の乘するところにならぬやう。

この返電あり、且つは前日州議會が當然全氏の後繼者たるべき次席副統領ジュリオ・リラの氏との返電あり、且つは前日州議

つたに鑑み遂に辭意をひるがへし從前通り州政府に留まるやうになつた。

尙エピタシオ聯邦上院議員は急遽パリを引上げ歸國の途に就くことになつたが、リオ到着前バライーバに立寄り暫らく滞在することにした模様である。氏

の歸國によつて變るべき巴里政情並に聯邦政府との關係は如何やうに變化するかは今の所政界の謎とされ興味を以つて待たれてゐる。

リ
オ

州議會開かる

リオ州議會は十六日から開かれた。同州議會開期は一九二八年の迄は八、九、十の三月月であつたが昨年より十一の二ヶ月に延長せしむるを決定した。

對聯邦政府を後援として絶對反對の氣勢を揚げワシントン大統領を再び州内政に干渉せしむるを企てた。オ、グ、デ、ス、氏を承認したるに對し、リ、セン、セ、ー、選出議員が廢任を打退し、上院議長に就任したるを拒否した。

アントニオ・カローロス氏は
ミナス共和黨總裁

オレガリオ・マシニス氏が州統領就任によつてミニス選出聯邦上院議員に空席が出来たが其後任に現州上院議長ジャック・モンタンドン氏が推され氏は來る廿五日ベルナルデス氏の主催する歡迎會に臨んだ上府する管である。尙前統領アントニオ・カロー氏は衆望を負ふてミナス共和黨總裁となる筈。

グワキ共和國を訪問することに略々決定した由。伯巴兩國は七〇年のバラグワキ戦争を一期として爾來親善の度を増し一九二八年には現大統領ジョゼ・グツチアリ氏が公式でブラジルを訪問した程で、ジャリオ氏は其答禮の意味で隨拜を訪ねるのであると。

ヘードローラーゴ氏
バイア州統領

本月下旬出發の豫
 大期聯邦大統領ジュリオ・
 テス氏は歐米より歸つて

暫らくサンウロに在り、次期で豫定の如く當選した。氏は近所内カシヤフシントン大統領並に上府ワシントン大統領並に面々に出向、聯邦上下兩院議員に面々であつたが、意々本月下旬バラ

ブラジル
經濟略史
三巻
【五十】

第三 第十九世紀の卷

植民地政廳本國の
重税に悩む

十八世紀における奴隸制度、商業、航海並に物産の獨占等は其儘十九世紀に持續されたが植民地政廳の財政は窮乏甚だしく、一九一四年の歴史會議に提出したソーザ・レリス博士の調査に

元領事多羅岡鐵輔 先きにはハ五低賃の取持役を勤めたが今度は三五七低賃信用請願のお先棒を擔がせらる 後棒はジュキヤ線における元公使古谷重剛に擔いで貰つたらどう

元領事多羅岡鐵輔 先きにはハ五低賃の取持役を勤めたが今度は三五七低賃信用請願のお先棒を擔がせらる 後棒はジュキヤ線における元公使古谷重剛に擔いで貰つたらどう

此外市民の迷惑を蒙つたのは、絶え間なく公布せられる産業保護法

ポルトガル政府は植民地より及ぶ限りの税金を取立て最初に制定した各カピタニヤに對する割當さへも本國政府の借と云ふ名儀で徴収し満足に支給しなかつた。

有様で、一七八〇年總督の調査した當時既に千二百コントスと云ふ大穴があいてゐた。

更に第十九世紀初期に於ける產業狀態につきフアルンハーゲン

の記す所に従へば、當時ブラジルの人口は約三百万と云はれ其三分一は奴隸であつた。其主要輸出品を見ると、其首屈に推すべきは砂糖でリオ九千箱バイア二万箱ベルナンブーコ四万四千箱サントス一千箱合計四万四千箱、第二は棉花の七万俵で之を内課すればベルナンブーコ四万俵マラニオン一万六千俵バイア一万俵バラ及びリオ四千俵、第三は砂糖で更に二萬一千箱、一箱

ロバースのアニールが第六並に第七位にをり、此外タバコ、染料用材、建築用材、藥草、コパ

イバー其他が重要なものであつた

◆ 此等の生産物に對する税金は先づ輸出税として十分一税を課せられた上更に各種の附加税を課せられ、當の稅務官吏さへ幾何徴収は果して何故の課税か全く知るを得ない程であつた。就中砂糖及びタバコは課税の王様で他の物產と同様の税金を徴られた上更に

(一) 一六六二年制定の御用金箱サントス一千箱計四万四千箱、(二) 一七九九年制定の獎勵金箱、(三) 一七五五年のリスガア震災救済金といふ名目で課税せられ一八二三年獨立後も尙ドンペ

第二十三世の治世中繼續された

而して斯かる間に獨立の氣運は益々上つて來た。

令等たる獎勵法にて、政府の吏員に此等法令の施行に當てて市民より正しくしる金員を寄さざれば、私腹を肥やして喰んど云ふ所の保護獎勵費として使用しては居なかつた。それで道路、橋梁は損し、河川は荒れたるに任せ海灣に何等の改良工事も修繕されなかつたのである。

◆ 前後三世紀に亘る植民地時代のブラジルの經濟狀態は大略上述のやうな具合で、飽くことを知らない爲政者の苛酷誅求のため市民は懷の暖まざる暇なく窮乏に亞ぐに窮乏を以てした。時々

サントス市

珈琲コミサリオ

カーザ東山

ミヅカミ、イ、コムパニヤ

郵便 九一一號
電話 セントラル二八三七號
電信略號「TOZAN」

◎御照會次第御回報申上候

オ、デジヤネイロ
横濱正金銀行支店

ホテル
カールトン



Hotel Carlton
ESPECIMENTE PARA
FAMILIAS

Rua Lido Babaró, 26
Tel. 2-2956 S. Paulo

F. S. Hampshire & Companhia Ltd.

S. PAULO : RUA ALVARES PENTEADO, 21 SOB.
SANTOS : RUA 15 DE NOVENBRO, 147 SOB.

日本郵船の船は毎月一回南阿經由神戸に向
サントスを出張し、食
船内衛生設備の完全、食事の優秀、乗組員
懇切については定評があります

●神戸まで
サントスから六十三日

早く着く船

備後丸

十月十八日 サントス出帆

神戸又は横濱迄
(一等 二二三〇ミルreis
(二等 一六〇〇ミルreis
(三等 一〇〇〇ミルreis
キルreis

日本からお呼寄せの便法

日本から呼寄せられる方の乗船賃を當地郵
代運店へお願いお拂込になれば乗船券發行指
書をお送りしますその指圖書を日本内地の御
人にお送りになつて乗船支店の郵船支店で乗
券と引換へられるのです。その取扱は送金
費用や手数が省けつ最も安全な便法です

— 出帆日及び其他細詳は
上記代運店へ御照會願ひます —

日本郵船會社

さん加せるは八生産州

サ・イレ・ス・ジュ・オール氏
(サンパウロ珈琲局總裁)
▲ミナス・ゼラエス州
テオドロ・サンチヤゴ氏
(聯邦下院議員)
ジヤツケス・マシエル氏
ミナソナス州大藏長官
▲ゴヤス州
ルイス・アモリン氏(全州大
藏長官)
▲サンタ・カタリーナ州
アルトゥール・コスタ氏(全州
大藏長官)

根本義を忘却した

人爲的救濟策の末路

ブラジルに於ける製糖業は其歴史製糖業者との間に協議會を開き
史から云つても生産高から云つても世界の砂糖生産國の間に伍
して特色なき等なるに拘らず期間最低三十万俵の犠牲的輸出に
業界は連年不況の聲のみ聞き此依る損害補償として五百コント
儘に推移せば遂に破滅せんも測糖は義捐し向後ベルナンブーロ市
り難い状態に在る。これは主として生産費の高價なるが爲外
國品と競争すること全く不可能得ず途向することあるもサンバ
で、即ち内地消費以外に掛け口ウロの市價以下には賣却せざる
を求め得られない結果常に生産過剰の状態が繼續される爲であ

ソロカバナ鐵道も賃借

既報の通りサンパウロ鐵道の改訂交渉は目下聯邦政府と鐵道會社代表者との間に進行中なるが、該交渉にはソコカバナ鐵道の貸借問題も含まれてをるは既に公然の秘密とされてをる。既に公然の秘密とされてをる。政府は本契約締結と同時に鐵道會社側より巨額の贈與を受けることになるであらうと。本問題に關して或一部には如何に財政に對して或一部には如何に財政

であらうと。交通、農務兩省大臣は未だ誰人とも候補者は舉げてゐないが農務大臣には或是全然政治的關係皆無で専門技術家として十年一日の如くブラタジル農業開發の爲に盡力してをる現聯邦農務省農事獎勵監督局長アルツトルストレーフキリ

三千五百萬臺

三千五百萬臺

米國商務省の調査によると現在全世界の道路を走行してゐる自動車の新は登録されたもののみ三千五百一十二万七千三百八十八臺で、一九三二年度に比し百八臺で

決定的なものと傳へらる

ジュリオ氏

せす事實は英國資本國の目論見通り運ぶ模範である。

してゐるが、反對論の存否に關

補佐

アレクサス政府閣員諸公に就いては諸説紛々で未だ確報は得られないが最近カテヤ宮に懸念ある某ミナス政治家の言として新聞に傳はるところによれば
メロウ・ヴァン・シナ氏内務、マ
ンガベイラ氏外務、ビント
ダ・ハル・ス氏(海軍)、デル・デ
アルメイダ氏陸軍、カルド
ーゾ・デ・アルメイダ氏大藏
と略々決定されたものゝ如く
倚りより決まらぬはビレス・ド・リ
オ氏、警視總監にオリベラー・リ
ベロ・ソブリーニョ氏が推される

の増加である。それで支那
印度の大民衆を入れて三十五
人に一臺の割となるが、これは
一臺の割となるが、これは合
衆國に於ける四人半に一臺と
いふのがあるからで、合衆國を
除いた他の國を平均すると二百
十六人に一臺の割となるのであ
る。即ち合衆國の登録車數は二
千六百六十五万三千臺で世界に
おける總車數の八十八・四%を
占めてゐる。自動車此目覺し
い發達は近代文明の一驚異であ
ると共に又其發達に寄與すること
と突大である。

ふ可解な事實暴露

ふ可解な事實暴露
聯邦下院で問題となる

今より約四ヶ月前リオの新聞社
派遣の四名の記者がサンパウロ
市に於て突然行方不明となり爾
來百方搜索に手を盡したが皆目
録らなかつたところ最近に至つ
て端なくも右四名はサンパウロ
市警察の爲何等の理由も明示せ
られずして捕へられ内一名は警
官の爲懲殺され他の三名はソロ
カバナ線の奥地に護送せられ監
獄部屋に打ち込まれ警兵の酷ら
しい鞭の下に鐵道工事の苦役を

生活線上を大步す

うすればコロナは食へないか、とそんな材料を血脈で集めてゐるものもある。が大局から見て、日本と伯國と何れ生活し易いか、これ以外に問題はない筈だ。本社の實狀を査はるに主眼をおいてゐる。週を追つて此處に發表するであらう。凡ては、何れも尊い體驗を経ての記録である。やかな技術的の愉快は無くとも、眞實な歩みに依つて歩みその基礎を固めて行く喜こびと望みは窺へる。石の上も三年といふ……斯くしてコロナは生活線上を悠々と潤するであらう。

新富直吉

米（六十粒） 五十粒
 砂糖（六十粒） 五十粒
 鹽鱈（一疋） 三疋五五
 石鹼（一疋） 一疋五五

の不況時を活用すべきで

[illegible]

は貸附期間利息、運搬費

ける關係上、自然その價
 は貸附期間利息、運搬費
 掛、物品の自然消滅による
 損等を加算するため市場値
 より數割高價です。
 場に於て販賣する粉米交り
 二等、三等米は一俵二十八
 母國樞密院
 條約を承認

見、其他農作の不作を見越
 し平均收穫見込。黍は養雞
 飼料として計算せず
 年収入計 二、〇〇〇、〇〇〇
 〇支出
 米 月一袋年十二袋
 (一袋五十鈎) 六 百 鈎
 豆 月廿立年二袋
 (一袋三十鈎) 六 十 鈎
 砂糖 月三十砵年六袋

(一袋五十鈔) 三百鈔
麥粉 月半袋六鈔
(一袋四十五鈔) 二百七十鈔
石油 三罐
(二罐三十鈔) 九十鈔
豚脂 月一罐年十二罐
(一罐六鈔) 七十二鈔
其他醬子、鹽、牛肉、雜費等
一ヶ月二十鈔で年二百四十鈔
衣服、醫藥等 年二百鈔
年支出計 一、八三二、〇〇〇
即ち差引預額債から百六十
鈔なるも支出物品値段は全
高價なる品をフアゼンなど
供給して貰ふものとしてな
れば二歳目よりはその事に
れば能率は増進し、貯蓄の
ゆゑは充分と思ふ。

五、珈琲園經營の收支はぬめ
めアバンドンするやうな
はなく、當耕地など寧ろ
その状況を示すと、コロノ
手を入れなくてはなる位で
その狀況は五、六、七月の
持耕地は五、六、七月の
取期以外は殆んど毎月一
草するため二寸以上生長
た事があります。又間作は
珈琲樹のために米、豆を一
のま播種することを許し、
は絶対に許して居りません
ハ、入耕後僅かハヶ月に
ぎす。經營資金、金融方法
關する調査不充分なるを
とします。

新農年度に於ては日本移
の入耕を希望してゐます。
の好む理由として次の事
ける事が出來ます。

イ、養務農園よりその責
を感じて素直に就斷すること
ハ、他國民の様に入耕直後
馬の飼育、殊に養豚をしない
ため養の間作を強要せぬ事。
又養う地に黍を作つてのみ
に養鶏飼料としてのみ。
ハ、聊かの降雨、露などに
き易せず除草、實採取等を
はぬ美點がある。

ニ、黍の間作を中心に浮遊
る外人コロノの如き事なし
ホ、事情を勘案して支拂に
し外人の如く徒らに厳しく
いこと。

ハ、今後獨立農として行く
道は米作を主とし、副業と
て珈琲、養蠶、棉作等を適
に選ぶのが良くはないで
か。今回の珈琲植算は
つの試験であり、本當のブラ
ジル農業はこれから生れて
るものと見て差支へないで
う。組合の設立其他、問題
畢竟今後にあります。(終)

御最貢に感激し
 ダン銀値下け斷行。一品洋
 一軒均一、血の道、神經痛、胃
 湯 腸病をデキマ
 返 命に治す送料共六軒
 性 (動植物の精)
 日本藥局 海老根喜重
 郵函 二二七
 リンズ・セツリーナ町の
 親切本意
 日本人御宿は
 山下藤太郎商店
 峰松商店
 ノロエステ鐵道變更
 アルト・ビメンタ町
 菓子製造卸小賣
 御禮儀及佛事の舞菓子も
 調製致します
 福嶋菓子店
 アラサツバ
 (石井ホヰル隣)
 三保繁人
 スエノ
 圓満に解決つけ度ひから
 急居所を知らせ
 サンパウロ市
 本社内宛 C.K.
 賣り貸し土地
 聖地に續く水又薪の便よき果
 野菜、雜穀等の栽培に好適の
 を賣り又は貸します
 GRANDE EMPRESA AGRICOLA
 Rua Senador Felip, 27 on Andara Sudo
 (十二時より五時迄)
 内外洋酒、各種
 洋菓子
 暖い飲み物
 冷い飲み物
 コンフエタリヤ
 パリツ
 公園前アラスツ
 Progresso Agricola
 肥料 數ある肥料の内、最
 然も値段の安いのを最
 であります。是非一度御試
 を乞ふ。御申込は左記に
 在る。P. de A. 43 P. de A. 5
 又は電話 二二七五二

MACHINA "SINGER" シンガーミシン 御入用の方は下記へ御相談下さい 即金又は長期月賦にて御求めに應じます コンデ街六十三番 中野佐々記 又は JAYME B. RODRIGUES R. Domingos Moraes 5.A. Tel.7-3987	極安白米 味に於て既に定評ある本地方産白米を特價を以て御注文に應じます、御一家の經濟上一度御試しを願ひます、ことにモシアナ線イガラバーバ線 モシアナ線 珈琲耕地在住者へは鐵道運賃の割安關係上御試しを願ひます 福川爲然 郵函廿二	DR. K. DAIAN MEDICO Araçatuba 大 魔 喜 八 (商店南原大)ペリフテラア	Dr H. H. SAITO MEDICO Rua da Inconfidencia, 6-35 齊藤等 醫學士 パウル市 電話二六九	お臺所の福音 使つて割のきく 喰べて美味しい 菱岩印醬油 調味料の王 是非御試しを 岩倉醬油釀造所 ソロカバナ線オウリニョス町 郵函九十三 洋服の御注文は是非當店へ 園部洋服店 迅丁親 速寧切 ノロエステ線ビリグ丰町 郵函二九
Villa Valle - Bairro Jardim リペロン ピーレス アグア・デ・リオ クラロ街道に添 又た土地を賣り 又は貸し度し 現金或は年賦 シヤカラ向きに 大きな面積をお 貸します 詳細は下記へ R. dos Comercio, 2-A Ribeirão Pires 又は Praça Ruy Barbosa. 13 Santos	CASA LIMA Rua São Bento, 46 Tel. 2-3944 SÃO PAULO 眼鏡 鼻眼鏡 整腸帶 銅 締 ゴム製 おしめ 其他ゴム 製品一式	Pharmacia Santa Maria de José Fernandes R. Oswaldo Cruz 71. C.P. 248. Tel.97 ARACATUBA. - N. O. B. 内外藥品 一切 アマレロン、マ レドクタ、フエ レの特効薬、調 剤日本諸氏には 特價提供 オアラサツバ ス橋ビル市 電話九七番 郵函二四八 サンタマ リア薬店	Pharmacia Popular DE HOEPPNER & SILVEIRA Av. Minas Geraes-Promissão - Caixa, 101 獨逸製 醫療器具類 農業用藥品 アルセニコ 其 エンソフレ 他 シヤヌレト 藥品一般 フロミンシア ブアルマシア ポプラー ミナス ゼラエス大通り	園部 實 二 ノロエステ線ビリグ丰町 郵函二九

調査の數字が示す切實な事實

問題の妊娠調節

▲多産の苦しみ	三六%
▲病毒に悩む者	一六%
で更に年齢別に見ると	
▲卅一歳—卅五歳	三二%
▲廿六歳—卅歳	二八%
▲廿八歳—四十歳	一五%
▲十八歳—廿五歳	一三%
▲四十歳以上	一二%
その月収を見ると	
▲百圓以下	七八%

百圓以上	二二%
で薄給の者が大部分を占めてゐる。子供を何人持つてゐる人が多いかといふと	
▲四人以上七人	五三%
▲一人以上三人	三七%
▲八人以上十人	七%
▲有せざる者	三%
であるが、當局者の態度は依然強硬を持續してゐる。	

九家族五十七名の集り
『理想工場』建設さる

生産的結合から更に
共同消費生活へ

活の起るには、やゝ多岐に過ぎず。者に對しては芝公園の愛兒女性協會産兒制限相談所に行くやうな、めてゐるが最近三ヶ月間、四百六十二人に對して見るとその相談の内容が何れも極めて眞面目で切實なものばかりで、妊娠調節反對論者が唯一の證據とする「眞面目な性生活を助成する」などといふ傾向は全く見られない。

▲相談の理由は

即ち家計不如意 四八%

大正十五年迄の好景氣を境として、大々的な出生率の減少し、同業者の生活が極度に窮乏してきたのを、東淀川區國次町に建設された同志八名を糾合、生活習慣改良會對する背水の陣を布いて、「三ツ扇メリヤス」なる新組織の旗を掲げた。組合は従来のやうな買置生産結合だけではなく、消費生活でも、工場と事務所並に住居をもつて共同に、市場と事務所に生

あらゆる更生策も空しく没落の一途に喘ぐ中小工業、家内工業の前途に一脈の光明を與へやうとする生産、消費の兩面を包む劃期的な大家族式の協同經營組合が工業地大阪に誕生の聲を擧げた。

三十過ぎたら
子を生まぬ

夢のやうな山梨縣下

奈良田の仙郷

原始的の火田民の生活を續けてゐる村、物々交換の村、特別な産兒制限の行はれてゐる村、盜賊のゐない村、酒はあるか菓子を賣る事なし村、一人の先生が六學級を教へてゐる村、山から含鹽水が湧き出る村、そして千數百年來自給自足してゐる村——こうした信じたがたい程の別天地が、南アルプスの山懷裡のところにある。奈良田の郷——

この村は甲斐の白根の直下、早川の溪谷に開けた東西二町、南北七八町の溪谷に細々と煙を上げてゐる戸數四十二、人口二百三十餘を數ける一部落であるが、一番近い人里からでも三里は離れてゐる。

建物は石屋根又は草ぶきの小じまなりした荒けつりの堀立小屋で、その常食は麥、豆、粟、馬鈴薯、川魚、それに時々打とめる鰯、熊などの肉等々。村人の着物は一見麻布のやうなだぶだぶしたもので、まるで肥料のかまを着てゐるやう、この麻衣はタコとて野生のぐどば藁とかうぞの織維を手織にして作つた

舊盆決濟の一ヶ月延期
民間モラトリアム

れた。炊事場や食堂、浴場など共同信用で借り入れ、こゝに新
も共用とし、包擁する九家族五らしき大家族が形成されたが、
十七名の子の子弟も大家族の子網羅に依ると資金は平等に日給
として學費金を與へると云ふの二圓、食費は滿六歳未滿は共同
で、まさにロバート・オーエンの養育の意味で徴收せし、七歳以
の理想を新らしい生かさうとい上十歳迄は半額だけとする。この
ふ計畫である。九家族は從來の「理想の工場」がどう生長發展
機械を持ち寄り、運轉資金はこするかは頗る興味あることで一
の企てに興味を持つ篤志家から般に注目されてゐる。

無智と貧乏が産む
悲惨なえい児死亡率

北大阪細民階級の實情

大坂市立本庄産院ではかねて北六〇名（一七％）で、生後死亡のうち生後二百日から満二歳になるまでが五五％の率を示し、大坂一帯の細民階級にわたり分娩後の嬰兒の運命につき調査中だつたが、その統計の上に市民の不衛生を示す数字が現れた。生後三六六名の嬰兒のうち生後障害、粗悪白粉かによる腸膜炎、貧血による乳児脚氣、貧血による胃腸障害、粗悪白粉かによる腸膜炎の三種がそれぞれ十名乃至十一名死八六名（二〇％）流早死産の

の交易は古來七里の峠を越

つめた池ノ茶屋ちややこの悲惨ひさんな數字すうじか

といふ三千尺の峠の頂きで實行されてゐる。

此の頃では米三斗に對し下駄の表ならまゝの通つたでも五十足は持つてゆか難はならぬとの事。

時によると一方だけ峠へ行つても相手が來ない場合など、相手の名前を書いて荷物諸共小屋のへ轉がし込んでサツサと引あげ、次の日又こへ行つてそれに代る品物を持歸るが會て物の失くした事は無い。ましてや村で盜人のあつたためしなく、いものがゆをすゝりながらも素朴な生活は續けられてゐる。

殊に細民階級に於ては治療よりも豫防の方が遙に喫緊事だと云はれてゐる。

中等校野球大會 各地代表決定

朝日新聞社主催の第十六回全國中等學校優勝野球大會の二十二日地方審査會終了の結果、甲子園の通り決定した。

北海中學、八戸中學、東北中學、桐生中學、水戸中學、慶應普通部、諏訪靈絲、靜岡中學、敦賀商業、愛知商業、平

中、小倉工業、臺北一中、大
邱商業、大連商業

安中學、浪華商業、和歌山由
學、伊陽中學、松山商業、
島商業、米子中學、鹿兒島二
中、小倉工業、臺北一中、十
邸商業、大連商業

新補充計畫費

五億圓に達す

海軍省の來年度豫算會議はこのの

年度より昭和十一年度に至る
積事業の年度割原案が漸く出
上つた。而して目下艦政本部

一、現在の航空十七隊中十隊を練習航空隊として獨立せしめ、（たぐひ）軍令部案の主要點は、（たぐひ）に於て言數の算出に努めてゐる。

二、六吋巡洋艦の代換に八千六百噸級四隻を建造す。

三、小型潜水艦を多數建造す。

四、航空母艦一萬二千噸一集
を新に建造す。

五、主力艦改裝費の充實 等
である。之を全部豫算に計上す

餘財源たる五億餘圓に近くを
 ので、海軍省としては更に査
 を加へて三億圓臺に止めたい
 同であると。

和歌山縣下の
劇場全休

てゐる和歌山縣下興行界では、興業組合役員會を和歌山市内賓館で開催し協議を重ねた結果、遂に縣下四十の劇場が經營

の見込み立つまで一齊に全休する事に意見が纏り、同市の映画常設館紀國座のみは帝キネ直営のため一應本社に諒解を求める

になり、この態度決定次第断
される事になつた。

緊縮時代の

セ
ン
ス

りな商業新時代が告げられた。それは戦時体制の生活した大動勢である。

●兵庫縣飾磨郡農會では同郡産の西瓜宣傳のため姫路市の納涼博覧會内販賣場で代金一人十錢の「西瓜喰ひ次第」を實施、大好評で西瓜好きが押すなど。

●姫路百貨組合は三日間の鶏肉大廉賣、百七十錢で最良品に「一卵揃み取り勝手次第」は大人氣を呼び鶏肉がそれこそ羽が生えて飛ぶやうに賣れたが、世の中には手の大きなものも居るのを、片手一度に卵八個を握んで大喜びで歸つたものが三人もいたさうだ。

貴金屬類
 時計
 其時
 迅速
 修理
 ます改
 し直す
 迷はず
 信用
 下店
 下さへ
 領事館
 の他各
 命社興

サンアィフンコデザーカ
 Gノー・ルテホ・ドンラゴ・サツベラト

寫眞機

並に附屬品、材料一切は
最も信用ある當店の
直輸入品に限ります

「アグファ」
「インベリアル」印乾板

「ブラジル」
コダック「會社代理店

トアルテ・サレルノ商會

現像、修正並引延し
新型錄出來申込次第進呈

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonês de maior circulação no Brasil

Anno XVI

São Paulo — Quinta-feira, 18 de Setembro de 1930

Num. 694

NIPPAK SHIMBUN

Propriedade e direção de:
SACK MIURA
Redactor da pagina brasileira José Solé

Redacção, Administração e Officinas
Rua da Liberdade, 146
Caixa Postal, 375
Telephone, 2-3926
Endereço Telegraphico "NIPPAK"
SÃO PAULO — BRASIL

ASSIGNATURAS
Para o Brasil:
Por anno 30\$000
Por semestre 16\$000
Numero avulso \$500
Para o Exterior:
Por anno 60\$000

ANUNCIOS
Temos á disposição dos interessados
uma tabella completa de preços para an-
uncios nesta folha. Telephone 2-3926

EDIÇÃO DE 8 PAGINAS

Noticias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN)

O movimento educativo no Japão

O Ministerio do ensino publico, entendendo que a collaboração do lar para a instrucção publica é a questão fundamental, realizou a primeira reunião de magistrados no mez de Junho, a qual assistiram os inspectores, lentes cathedra- ticos e representantes do interior.

Tendo sido discutidos e devidamente estudados diversos assum- ptos sobre a educação no lar, nessa reunião, decidiu aquella repartição abrir um curso tempo- rario durante este mez em Osaka, no qual se prepararão os guias deste trabalho importante e indis- pensavel em todo o territorio ja- pones.

Na Sociedade das Nações

O embaixador japonês na Liga das Nações

O representante do Japão na Sociedade das Nações, sr. Matsuda- daira, foi distinguido pelos outros membros da Conferencia, para o alto cargo de Presidente.

A opinião do sr. Matsudaira sobre a Federação Européa

Sobre a tendencia geral de en- quadrar na Sociedade das Nações o projecto Briand, o sr. Matsuda- daira, disse que eram apreciaveis mas insufficientes, os resultados da Conferencia Naval de Londres e accrescentou que tinha grande sympathia pelo projecto do sr. Briand, que é de natureza a au- xiliar eficazmente a consolidação da paz geral do mundo.

Movimento Commercial Japonês

O Ministerio da Fazenda do Japão, informa que o total do commercio exterior durante o mez de Julho passado, foi de 222.168.000 yens, sendo 104.915.000 de yens na importação e na ex- portação 117.253.000 yens.

Comparando essas cifras com as do mesmo periodo de 1929, tanto na exportação como na im- portação temos a observar menos 70.961.000 yens na primeira e na segunda 62.331.000 yens.

Partida do Barão Iwasaki para a Europa

O Barão Iwasaki, que se acha- va em repouso na Fazenda Monte d'Oeste, em Campinas, partiu pa- ra a Europa no dia 13 proximo passado, deixando seu profundo agradecimento á terra brasileira.

A Historia da Pintura Japonesa

Entre os contemporaneos de Shu- bun figuram seu discipulo Masano- bu, famoso pelos quadros hieraticos e ainda pelas paisagens, e seu ami- go Soami, poeta e ao mesmo tempo paisagista, famoso pela erudição concernente á pintura antiga e, como Kanaoka, celebre desenhista de jardins. No "estudio" de Soami iniciou seus estudos Sesshiu, tam- bem poeta e erudito, afeiçoado á flauta e, por intelligencia, inclinado á bebida, apesar da sua profissão de sacerdote. Ao terminar seus estudos com Soami, Sesshiu, foi para a China á procura de um mestre que o aperfeiçoasse mais ainda. Conta-se que quando o imperador do antigo "Celeste Imperio" soube da fama dos seus quadros, o con- vidou a ir á corte, e ao sugerir-lhe que improvisasse qualquer coisa, o pintor pediu um pincel e pitou um enorme dragão que deslumbrou a multidão pela sua vitalidade. Pouco depois, Sesshiu lamentava-se de

Serviço radio- telegraphico entre a India e o Japão

Estão quasi concluidas as ne- gociações iniciadas ha pouco tem- po para o estabelecimento do serviço radio-telegraphico entre a India e o Japão, esperando-se que esse serviço comece a ser feito em principios de 1931. Sabe-se que o governo indiano já appro- vou o projecto, devendo a estação Kirkee ser augmentada para dar vassão ao trafego de correspon- dencia internacional.

Os acontecimentos políticos no Perú

O Japão reconheceu o governo de Cerro

TOKIO, 13 — O ministerio japonês telegraphou ao ministro das Relações Exteriores, em Lima, reconhecendo a administração re- volucionaria do Coronel Sanchez Cerro.

DR. S. TAKAOKA

MEDICO - OPERADOR
Rua Fagundes, 8
Tel. 7-4683 S. PAULO

O Asama-Yama em erupção

TOKIO, 12 — O vulcão Asama- Yama, situado na ilha de Hondo, entrou em violenta erupção. As primeiras noticias chegadas a esta capital annunciam que torren- tes de lavas rolam pelas encostas das montanhas. Todos os habi- tantes das povoações visinhas haviam fugido espavoridos. Verificaram-se mortes.

NOTAS AGRICOLAS

Uma cultura promissora

Os jornaes paraenses ultimamente chegados, relatam como os japonezes nas suas vastas concessões de terras nesse immenso Estado estão incentivando a cultura de mandioca. Elles pretendem transformar o Pará, dentro de dez annos, num dos maiores centros productores e exportadores de mandioca do mundo.

Até agora temos nos descuidado lamentavelmente de tirar desse excellente producto todas as formidaveis vanta- gens que elle nos poderia dar. Emquanto as Indias Neerlande- zas, por exemplo, exportam annualmente cerca de duzen- tas e cincoenta mil toneladas de farinha de tapioca, polvi- lho, raspas e residuos, e Java, quasi cem mil toneladas, nós nos resignamos a cifra de seis mil toneladas, no valor pou- co mais de dous mil contos.

E' digno, pois, de louvor o emprehendimento japonês.

Dados que animam

A exportação de algodão brasileiro em 1929, foi a mais elevada que até agora já se registrou. Este anno tudo faz crer que as estatisticas das nossas vendas de algodão para o exterior são ainda bem mais altas que as de 1929, que alcançaram a cifra de 48.728 toneladas.

Nos seis primeiros mezes do corrente anno, as vendas do nosso ouro branco, ou seja algodão, excederam a toda expectativa. Exportamos 37.791 toneladas num semestre, e como nada parece que diminua o nosso movimento de ex- portação no segundo semestre de 1930, teremos as cifras de 1929 consideravelmente ultrapassadas.

O que torna tal exportação cada vez mais importante, é que a tendencia do valor do algodão é para subir cada vez mais, devido a crise de produção e qualidade que atravessa o producto norte-americano.

A Revolução Chinesa

Comunistas decapitados

TOKIO, 14 — A «Tokio Infor- mations» communica que nas pro- ximidades das concessões japo- nesas, continua cada vez mais intensa a repressão ao commu- nismo. Só em Hanken é de 13 a mé- dia de execuções diarias. Hoje foram decapitados mais quatro comunistas.

DR. Y. KIKUCHI

MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

Emigrantes japoneses para S. Paulo

De bordo do «Buenos Aires Marú» desembarcaram em Santos os emigrantes que devido a trachoma não tinham podido descer na sua primeira viagem. Já se encontram perfeitamente saos.

PRECISA-SE

de dois rapazes para ty- pographia (apprendizes)
Rua da Liberdade, 146

Naufragio de uma embarcação japonesa

TOKIO, 12 — A agencia nipponica «Tokio Informations» com- munica que o navio-tanque inglez «Pearleaf» em caminho do porto de Hong-Kong para Singapura, mudou de rumo para soccorrer a embarcação japonesa «Baki-Ma- rú», que se estava afundando no estreito de Hainan. As ondas que subiam a grande altura destrui- ram rapidamente a chalupa.

A tripulação não poudo ser sal- va apesar de terem accorrido, o mais depressa possivel, ao local, mais um vapor e cinco embar- cações japonesas, conseguindo trans- bordar apenas o capitão e tres tripulantes.

TYPOGRAPHIA
NIPPAK
S. PAULO
Executa qualquer serviço com rapidez e perfeição
RUA DA LIBERDADE N. 146

O ensino em São Paulo

São Paulo é, na Federação, um constante exemplo do progresso. Basta o brilhante esforço, que em prol da diffusão do ensino que aqui cada dia se registra, para verificar a verdade do que dizemos.

Acaba a Directoria de Instruc- ção do Estado de levantar a es- tatistica do ensino durante o anno de 1929. E essa estatistica re- vela um progresso notavel sobre o que até então existia.

Com effeito, houve, em 1929, um augmento de oitenta e tres escolas primarias sobre as que havia em 1928; hoje a cifra de taes estabelecimentos sobe a . . . 3.310. A frequencia foi de 388.418 alumnos.

Quanto aos estabelecimentos de ensino tecnico, seu numero é de oito, registrando-se uma matricu- la de 5.237 alumnos, com um au- gmento de 1.087 sobre 1928. Com referencia ao ensino particular, a cifra é tambem muito alta. Em 1928 ella foi de 71.628, sendo que em 1929 passou a ser 132.608.

Em summa, olhando-se os to- taes de ensino englobadamente, ha 485.583 matriculas em 1929, para 553.205 matriculas em 1929. Bastam esses numeros para mostrar como S. Paulo, cuja ins- trução publica possui metodos magnificos, timbra em caminhar na vanguarda do Brasil.

AVIAÇÃO

Fracassou o reide aereo Japão-Estados Unidos

Os aviadores americanos Gatty e Bromley empenhados no reide Japão-Estados Unidos levantaram vôo iniciando a arrojada empreza com inteiro exito, tendo, porém, fracassado depois de voarem cer- ca de 800 milhas.

Eis o ultimo telegramma:

TOKIO, 15 — Os aviadores Gat- ty e Bromley, tripulantes do City of Tacoma, que andavam perdidos durante mais de doze horas, vol- taram a territorio japonês na ma- drugada de hoje, tendo pousado no cabo Shiray.

Os aviadores já tinham percor- rido cerca de 800 milhas, quando encontraram denso nevoeiro e chuvas, que os obrigaram a re- gressar, depois de terem voado sobre o archipelago das Kurilas.

K. NISHITANI
IMPORTADOR E EXPORTADOR
R. Conceição, 88
End. Teleg. NISHITANI
Caixa do Correio, 1134
RIO DE JANEIRO

Numa aldeia da provincia de Musahi viviam dois lenhadores, Mosaku e Minokishi. O primeiro era um ancião; contava o segundo dezoito primaveras. Os dois homens iam diariamente ao bosque que ficava a umas cinco milhas da aldeia, afim de cortar lenha. Em camin- ho tinham que atravessar um rio muito largo e a travessia era feita numa pequena embarcação, pois todas as pontes que se cons- truíam caíam, arrancadas pela correnteza.

Uma noite de inverno, voltando do bosque, Mosaku e Minokishi foram surpreendidos por uma tormenta de neve. A muito custo chegaram ao rio que não puderam atravessar por ser forte demais a correnteza, e tiveram que se abrigar na choupana do barqueiro.

Junto ao brazeiro deitaram-se os dois amigos, para no dia se- guinte regressarem á aldeia.

O velho não tardou a adormecer, mas o rapaz ficou por largo tempo a ouvir o temporal que se tornava cada vez mais violento. Por fim, cansado adormeceu tambem. Em meio da noite o rapaz despertou assustado e com grande assombro viu a porta da cabana aberta de par em par. Uma mulher vestida de branco estava incli- nada sobre Mosaku e soprava-lhe no rosto; o sopro parecia uma fumaça branca.

Attonito, Minokishi contemplava a scena estranha.

E eis que, de subito, a desconhecida aproximou-se delle e o lenhador poudo ver então que ella era muito formosa, apesar da expressão cruel que tinha no olhar. Depois de fitar por algum tem- po o rapaz, a mulher disse sorrindo:

—La fazer a ti o mesmo que fiz ao ancião, mas és tão moço que tenho piedade de ti, por isso vou poupá-te. Mas se algum dia con- tares a quem quer que seja, mesmo á tua mãe, o que acabas de ver, no mesmo momento morrerás. Lembra-te do que te digo!

E assim falando a mulher de branco desapareceu por encanto. Com muito esforço o rapaz conseguiu erguer-se, procurando por

IUKKI-ONNA

LENDA JAPONESA

todos os lados a estranha visão; mas coisa alguma encontrou. Pela porta entrava o vento trazendo montões de neve.

Minokishi cerrou a porta e julgando haver sonhado voltou a deitar-se junto ao brazeiro. Em altas vozes chamou Mosaku mas não obteve resposta. Tomado de um viço terror, aproximou-se do velho companheiro, apalpando-lhe o corpo; o ancião estava morto!

Pela madrugada amanhou a tormenta. O barqueiro voltou á choupana e encontrou Minokishi desmaiado junto ao cadáver.

Depois do acontecimento daquella noite, o rapaz enfermou gra- vemente. Cumprindo a promessa feita á mulher de branco, jamais relatou o estranho facto. Uma vez curado, retomou a sua vida ha- bitual. Todas as manhãs ia para o bosque e voltava á noite carrega- do de lenha que a mãe vendia no dia seguinte na aldeia.

Uma noite, ao voltar do bosque, o lenhador encontrou em seu caminho uma linda moça. E como seguissem o mesmo rumo puze- ram-se a conversar.

A rapariga disse que se chamava O-Iuki, que ficara orphã de pae e mãe e que ia para lido a procura de uns parentes.

Em caminho foi crescendo a sympathia entre os dois jovens e chegando ao povoado o lenhador convidou a moça a descançar em sua choupana. Aceitou-o exultante, mas a mãe do rapaz dispensou-lhe a mais carinhosa acolhida pedindo-lhe que adiasse a sua viagem á lido; a moça aceitou e pouco tempo depois casava com o lenhador.

O-Iuki vivia muito feliz; teve dez filhos, sendo todos elles muito brancos.

Uma noite, enquanto as creanças dormiam, Minokishi observava em silencio a esposa que costurava á luz de uma lampada collocada sobre a mesa. De repente, disse o lenhador: — Ao ver-te o rosto illuminado, recordo-me de um caso estranho que se passou commigo quando eu tinha dezoito annos.

Vi então uma mulher que como tu, era clara e formosa. E era tão parecida commigo!...

—Conta-me o caso — pediu O-Iuki sem levantar os olhos do trabalho. — Onde viste tal mulher?

E Minokishi relatou a aventura daquella noite passada na chou- pana do barqueiro. Descreveu a morte do velho companheiro e re- petiu as palavras da Mulher de Branco.

—Não sei se eu dormia ou se estava acordado — acrescentou o lenhador — mas o certo é que só naquella occasião vi um ente tão bello como tu. Inspirou-me um grande pavor, mas... era tão bonita e tão branca! Teria sido um sonho ou a visão da Mulher de Neve?

O-Iuki ergueu-se rapidamente e, aproximando-se do marido, gritou em tão ameaçador:

—Fui eu... Iuki-Onna sou eu! Lembras-te que naquella noite te previni que morrerias se narrasses a algum o que occorreu? Por amor de nossos filhos não te mato agora. Mas cuida delles muito bem porque do contrario terás o castigo que mereces!

A medida que O-Iuki falava a sua voz tornava-se cada vez mais subtil, assemelhando-se por fim ao sibillar do vento.

Seu corpo desfz-se de subito numa fumaça muito branca que logo se evolou no ar...

E desde então ninguém tornou a vêr a bella O-Iuki...